

4-6					
主題	SNS を活用し地域の方へ施設の魅力を伝える				
副題	写真、動画撮影を行うことにより利用者と職員の「楽しい」を広げる				
キーワード 1	広報活動	キーワード 2	SNS	研究(実践)期間	7ヶ月

法人名・事業所名	社福) あそか会 特別養護老人ホーム北砂ホーム 在宅サービスセンター
発表者(職種)	大井加菜子(介護職員)
共同研究(実践)者	高坂由季子(介護職員)

電話	03-5606-1731	FAX	03-5683-2440
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	江東区にある、あそか病院を母体とする特別養護老人ホームです。ショートステイ、在宅サービスセンター、地域包括支援センターを併設しており平成4年7月に開設されました。施設理念でもある「利用者本位」「自立支援」「地域に開かれた施設づくり」をモットーに地域に頼られる高齢者福祉の拠点を目指しています。
-------	--

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

発表者である私は、今年の1月に系列の特別養護老人ホームから在宅サービスセンター(以下デイサービス)に異動し初めてデイサービスの業務を学ぶことが出来た。ベテラン職員のレクリエーションを見て勉強するにあたり、複数の利用者様が楽しそうにレクリエーションについて感想を話している姿を見て、この姿をもっと他の方に見てもらいたい、もっと知ってほしいという想いが強くなった。だがコロナ渦で誰でもすぐに見学が行えるわけではなく実際に見ていただくのは厳しい状況であり、SNSを活用し他の方に見てもらおうと考え本研究を進める事とした。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

1、北砂ホームのデイサービスでは SNS に対する認知度が低かった。SNSへ投稿することにより、どの職員も操作方法を学び、身近に SNS が存在することを認識する。

2、動画を作成し、レクリエーションの様子を利用者様に見てもらおう。自分の姿が映っていることで、その時の「楽しい」を振り返っていただき話題の拡大を図る。

3、SNS に投稿する内容を利用者様と考え、同じ目標に向かって進むことが出来る。

4、目標を達成した時の達成感を一緒に味わうことができる。

5、ご家族に利用者様の施設での様子を SNS で発信することで、どんなことを行っているか知って頂く。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ①youtube アカウントの作成 Instagram のアカウントは既にあった為、そちらを使用。
- ②職員に対し、動画撮影の説明を行う。顔を出したくない職員もいる為、配慮を行うことも同時に説明。
- ③動画をお試しで作成。曜日によって利用者が違う為、各曜日で視聴し反応を伺う。
- ④投稿するにあたり、肖像権の同意書を配布。ご家族含め同意を取る。
- ⑤動画、写真撮影時に撮影していることを伝え意識を高めて頂く。
- ⑥QR コードを作成。個別に連絡帳で SNS に投稿していることを告知する。

### 《4. 取り組みの結果》

色々な職員から、動画撮影の提案などが来るようになり楽しいことをする＝SNS にアップしようという意識が高まっていった。

最初は、撮影を行っていても利用者様が何を撮影しているかがわかっていない様子であったが動画を視聴していただくことで、実感が湧いてきており「私も出たい」「うつりが悪いのでカットしてほしい」「もっとキレイに撮って」などの発言が聞かれるようになっていった。視聴しながら他利用者様と動画について会話をされており盛り上がっている様子も見受けられた。

何かを作成する場面、例えば工作などを作る際に動画や写真を意識して「キレイに完成させよう」と目標に向かって取り組んでいる姿も見られ達成感を味わっていただけるとも出来たと考えられます。

上記内容から“研究(実践)の目的ならびに仮説”の1～4を達成したと考えます。

### 《5. 考察、まとめ》

利用者様からすると、SNS の使用は若い人がするものと思いがちであり、自身が使用することはあまり考えていない人が多い。理由については操作方法、撮影方法がわからないとの返答がある。地域交流の場の役目として、そういった煩わしさを少しでも軽減しインターネットや SNS を高齢者にも身近に感じて頂き活躍の場を広げる手助けが出来ればよいと考えます。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

Youtube、インターネット等。

### 《8. 提案と発信》

インターネットや SNS は便利であるが、時に危険なこともある。家族以外の身近な相談窓口として高齢者の声を聞く必要が職員にはあるのではと考えます。